

管理運営に関する基本的な事項



新たなパークライフ、快適空間の創造を試行実践し、展開・還元します

- 安全安心の確保と快適空間の提供に努めます
- 日本の熱帯植物を後世に引継ぎ世界に発信し、植物園としての機能を果たします
- パークラボの考えに基づき、さまざまな取組みを試行・実践するパークマネジメントを行います
- 上位計画等、都の施策を十分に理解し、都民のニーズに応える質の高いサービス提供を行います

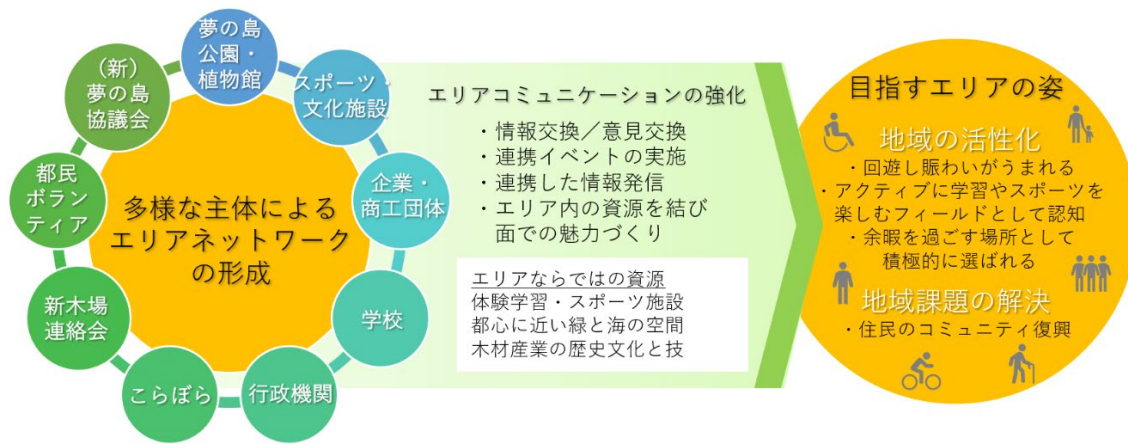
上位計画の認識と整理

計画等名称	理念・目標等			
パークマネジメントマスタープラン (改定マスタープラン) 「東京の公園づくりの基本理念」	基本理念 1 都市の魅力を高める 公園	基本理念 2 高度防災都市を支え る公園	基本理念 3 生命を育む環境を次 世代に継承する公園	基本理念 4 豊かな生活の核とな る公園
夢の島公園マネジメントプラン (むこう10年間を見据えた主な目 標)	目標 1 東京2020大会をレガシーとして継承する都立公園			
	目標 2 日本の熱帯植物を後世に引継ぎ世界に発信する都立公園			
	目標 3 地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園			
	目標 4 スポーツによる健康づくりの場となる都立公園			
	目標 5 都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園			
公園別マネジメントプラン改定の 視点と取組イメージ	視点 1 ポストコロナを見据えた社会への順応			
	視点 2 激甚化する気象災害への対応			
	視点 3 東京2020大会レガシーの継承			
	視点 4 民間や地域との連携強化			
	視点 5 DXの推進			

コンソーシアム各構成員の役割



地域特性の理解と地域連携の方針について



熱帯植物館における植物管理

展示施設としての価値の向上

Aドーム	水辺の植物や木生シダ+過去の熱帯植物の景観（あるがままの現地再現に近づける）
Bドーム	熱帯植物と人々との関わり+現在の人々と熱帯植物の関わっている様子 （果樹ゾーン→LED育成ライト等の設置） （階段上は、流れのある庭園風にする、人工的な雰囲気）
Cドーム	小笠原固有種の紹介+未来の小笠原諸島における理想的な固有種、広分布種、帰化種の姿
食虫植物温室	植物の中で一番進化した姿を持つとも言われている、食虫植物の様々な種類を一か所で見ることが出来る温室です。常設展示で常に良好な状態の食虫植物が楽しめるよう展示します。
オーストラリア庭園 （屋上庭園）	オーストラリア原産の植物を集めた庭園で、様々な気候区分をもつオーストラリアならではの特徴的な部分と分布を中心に紹介します。
ハーブ園	季節ごとのハーブが見ることができ、その他にも野菜や果物など身近な食物の様子が観察できる展示とします。用途別（キッチンハーブ、お茶用、ミント類、セージ類、ラベンダー類、タイム類、ベリー類等）に植栽地の仕分けを行い、位置図をマップ等に示します。
その他	目録の完成とデータベース化による管理簿の作成を目指します。 現在目録番号と植物名その他、植替え日等データを目録とともに記録していますが、植替え日、株分け、病害虫による対処日等管理履歴を追加したものを管理簿（仮称）として、館内植物に対し作成します。また、2010年からの主に大温室内の管理履歴について管理簿への統合を行い、作業の効率化を目指します。

憩いの場としてのしつらえ

大温室など屋内	現在、企画展関連植物（鉢物）を栽培温室から展示スペースにかけて展示していますが、企画展がない月は同属の植物をまとめて展示紹介する展示（フィロデンドロン展、カラテア展など）を行い、熱帯植物に親しみを持って
イベントホール、エントランス等室内展示エリア	観葉植物や花木の鉢物による癒しの空間を演出します。
芝生広場（前庭）	券売所周辺には、熱帯原産の観葉植物や花木を中心とした寄せ植えを設置します（現在ある枕木花壇は経年劣化のため撤去）。植物館の建物に入る前段階から、南国（熱帯地方）にきた気分になれるような植栽展示を目指します。その他の植栽地も熱帯や亜熱帯に分布する植物を増やすと共に、原産地ごとにまとめます。また、樹形や樹高など景観を維持するため、剪定等の作
北側花壇	館の裏、北側に位置するこのエリアは、春と秋の散策に適しています。それにあわせ、春や秋に見ごろとなる植物を植栽し展示します。芝生広場に多い赤い花とは対照的にテーマカラーを青とし、青を中心とした花々を眺められ